

幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察Ⅱ

— 学生と保育者の音楽意識の比較から —

A Study of Music Tuition from Relation between Kindergarten, Nursery and Elementary School (II)

— A Comparison on the Conciousness of Music between Students and Nursery —

星野 英五 *Eigo Hoshino*

(人間発達学部)

I. 動機

名古屋芸術大学人間発達学部子ども発達学科は、2018年度で12年目を迎えている。本年度新入生から、より専門性に即した4コース制をスタートさせている。これは保育士資格、幼稚園・小学校教諭免許の同時取得を希望する現状から、将来的に検討されている認定こども園に対応できる保育教諭や小学校における道徳や英語教育の促進にみられる教育の変化に応じる体制であり、4コース制の中の「子ども芸術コース」の音楽分野は大切な役割を担うものである。

小学校への連携に即した幼児期の音楽活動を円滑にするには、小学校音楽科低学年の目標である①「曲想と音楽の構造などとの関わりに気付く」②「必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身につける」③「音楽表現に対する思いをもち、曲の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができる」④「楽しく音楽に関わり、協働して活動を楽しみながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、生活を明るく潤いのあるものとしようとする態度を養う」の4点を考慮した音楽関連授業が求められていると考える。

乳幼児期に培う音楽の基礎として、小学校へのつながりを視野に入れることが求められるが、それは決して小学校で学ぶ内容と同じ指導をすることではなく、自然の生活の中で、子どもが主体的な活動を通して学ぶことであり、生きる力の基礎作りの為の健やかな心身の成長を促す音楽教育である。

保育においては、音楽はあくまでも遊びを中心とし楽しむことが一番の目的である一方で、小学校において音楽の授業は音楽そのものを楽しむ余裕がないように感じる。しかし、上記4点の目標は、方向性として大切にすべきであり、音楽意識の中に根付かせたい。音楽が楽しく好きであるという幼少時の気持ちを持ち続け、音楽を通して自己表現につなげられ豊かな心を育めるような援助ができることが望ましい。保育者の音楽観、子ども観、保育者観の調査を行うことによって保育者自身の音楽意識を見つめ直すきっかけになることを期待したいと考える。これから保育・教育者を目指す学生の音楽教育の基盤はすでに幼少時に受けた音楽環境によって形成されており、これから幼児教育を行う保育・教育者としての音楽意識に多分に影響すると考える。

今までの研究から、学生の幼少時代の音楽活動内容が保育・教育者の音楽意識の捉え方に大きく影響し、幼少時や小学校の音楽活動の経験次第で音楽に深く関れず楽しむことができない学生が多いことが分かる¹⁾。保育者は幼稚園・保育所においては毎日のように音楽活動を行う園が多い中で子どもの生涯音楽活動の基礎を培っている観点を持っていないことが分る²⁾。

本研究は、保育士資格、幼稚園や小学校教諭免許を取得しようとする学生と、現職で乳幼児を対象に保育実践を行っている保育者とでは、保育の音楽活動への向き合い方と小学校の音楽活動の捉え方がどのように違うのかを比較検討する。大学での音楽関連授業により、幼保小の連携をさらに知り、学生が自らのこれまでの音楽体験に縛られることなく、幼保小の音楽に積極的に関わられるような音楽関連授業を考えたい。

Ⅱ. 研究方法

対象：A群＝2年次学生83名（2016年度35名・2017年度48名）

B群＝保育所・幼稚園・認定こども園の保育者98名

時期：A群＝2016年11月・2017年11月／B群2015年11月

方法：A群＝一斉による質問紙調査／B群＝郵送質問紙調査

Ⅲ. 結果と考察

(1) 大学の授業に期待すること

表1は、大学の授業に期待するものについて、『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内、『非常に重要だと思う』と回答したものである。項目別に比較すると、学生（以下A群）は保育者（以下B群）と比較して、保育に対して3.「子どもに合わせて伴奏ができる」6.「絵本や詩にメロディーをつける事ができる」7.「幅広く主体的に音楽鑑賞する」で高く（ $p < .05$ ）、「わらべ歌で遊ぶ」では低い（ $p < .05$ ）。小学校教員に対しては3.「子どもに合わせて伴奏ができる」で低く（ $p < .05$ ）、7.「幅広く主体的に音楽鑑賞する」で高い（ $p < .05$ ）。A群はB群より、保育者に対して歌の伴奏は必要なものと捉え、絵本や詩にメロディーをつけることや主体的に音楽鑑賞するという想像力を働かせ音楽を工夫する姿勢を重視している。また、A群はB群にみられる日本古来の伝承的な遊びであるわらべ歌の必要性を感じてはいない。〈新幼稚園教育要領・領域環境（内容の取扱い）〉の(4)に『文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべ歌や我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通して、社会につながる意識や国際理解の意識の芽生えなど養われるようにすること。』とある。音楽イコール西洋音楽ではなく美しい日本語を使って美しい日本の歌を次世代に引き継ぐためには日本古来の伝承遊び歌の正しい理解に基づく西洋音楽への理解が必要であ

表1 大学の授業で重視したいもの

| 項目 | | A群 (学生) | B群 (保育者) |
|----------------------------|-----|-------------|--------------|
| 1. 音程・リズムに気をつけて歌える | 保育 | 45名 (54.2%) | 60名 (61.2%) |
| | 小学校 | 51名 (61.4%) | 71名 (72.4%) |
| 2. タンプリンや色々なリズム楽器を扱う | 保育 | 48名 (57.8%) | 54名 (55.1%) |
| | 小学校 | 49名 (59.0%) | 58名 (59.2%) |
| 3. 子どもに合わせて伴奏ができる (ピアノ・EL) | 保育 | 64名 (77.1%) | >55名 (56.1%) |
| | 小学校 | 35名 (42.2%) | <55名 (56.1%) |
| 4. わらべ歌で遊ぶ | 保育 | 45名 (54.2%) | <70名 (71.4%) |
| | 小学校 | 25名 (30.1%) | 19名 (19.3%) |
| 5. 歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫して歌う | 保育 | 25名 (30.1%) | 24名 (24.4%) |
| | 小学校 | 42名 (50.6%) | 52名 (53.0%) |
| 6. 絵本や詩にメロディーをつける事ができる | 保育 | 29名 (34.9%) | >17名 (17.3%) |
| | 小学校 | 22名 (26.5%) | 19名 (19.4%) |
| 7. 幅広く主体的に音楽鑑賞をする | 保育 | 26名 (31.3%) | >12名 (12.2%) |
| | 小学校 | 45名 (54.2%) | >39名 (39.8%) |
| 8. 音楽理論が分かる | 保育 | 12名 (14.5%) | 6名 (6.1%) |
| | 小学校 | 29名 (34.9%) | 35名 (35.7%) |

る。小学校教員に対してA群はB群より歌の伴奏の必要性を感じていないが、幅広い音楽鑑賞を重視している。子どもに音楽鑑賞を工夫して使おうとする意識が高く、B群は小学校で歌の伴奏技術は必要と感じているが小学校教科音楽を難しいものと考えているのか保育の音楽活動との連続性は意識していない。幼児の音楽活動といえば、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽に合わせて体を動かしたりするという活動が中心で、子どもの表出行為の再表現が〈領域保育内容表現〉につながるという考えに偏りがちである。保育の音楽活動は表現という視点からもっと根本的に子どもと音楽の関係を捉え直すべきと言える。小学校での音楽教育の目標である子どもの音楽的成長と保育における乳幼児時期の生きる力の基礎作りの目標を学生に分りやすく実践を交えて理論的に音楽授業を展開していくことが重要であろう。

(2) 音楽的保育観・教育観

表2は、音楽的保育観・保育者観について、『非常に思う』『やや思う』『あまり思わない』『全く思わない』の4段階評定の内、『非常に思う』と回答したものである。項目別に比較すると、A群が保育に対して6.「鑑賞曲は短く子どもに分り易いもの」12.「自分で感じた事をそのまま動きのリズムで表現する」13.「音楽環境が子どもの心理状態に影響する」14.「CD等音響機器は音質のよいものを選ぶ」15.「ピアノ等おけいこごとは幼児期から取り入れる」で高く ($p < .05$)、11.「わらべ歌遊びは日常的に取り入れる」で低い ($p < .05$)。小学校教員に対して12.「自分で感じた事をそのまま動きのリズムで表現する」13.「音楽的環境が子どもの心理状態に影響する」14.「CD等音響機器は音質のよいものを

表2 音楽的保育観・教育観

| 項 目 | | A群 (学生) | B群 (保育者) |
|-----------------------------|-----|-------------|--------------|
| 1. 楽しく音楽に関り音楽に興味関心を持たせる | 保育 | 61名 (73.5%) | 76名 (77.6%) |
| | 小学校 | 54名 (65.1%) | 62名 (63.3%) |
| 2. 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ | 保育 | 54名 (65.1%) | 69名 (70.4%) |
| | 小学校 | 32名 (38.6%) | 49名 (50.0%) |
| 3. 音楽発表会は日常的な活動から結びつける | 保育 | 44名 (53.0%) | 61名 (62.2%) |
| | 小学校 | 37名 (44.6%) | 51名 (52.0%) |
| 4. 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響 | 保育 | 58名 (69.9%) | 58名 (59.2%) |
| | 小学校 | 49名 (59.0%) | 50名 (51.0%) |
| 5. 生活の中でよく耳にする音や音楽との関りを大切に | 保育 | 50名 (60.2%) | 56名 (57.1%) |
| | 小学校 | 46名 (55.4%) | 51名 (52.0%) |
| 6. 鑑賞曲は時間の短く子どもに分り易いものを選ぶ | 保育 | 50名 (60.2%) | >44名 (44.9%) |
| | 小学校 | 32名 (38.6%) | 26名 (26.5%) |
| 7. 楽しさ活発さ静かさ優美さ等曲の感じが分るように | 保育 | 25名 (30.1%) | 23名 (23.5%) |
| | 小学校 | 41名 (49.4%) | 46名 (46.9%) |
| 8. 歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができる | 保育 | 23名 (27.7%) | 20名 (20.4%) |
| | 小学校 | 46名 (55.4%) | 49名 (50.0%) |
| 9. 合奏指導は幼児期に体験させるように | 保育 | 24名 (28.9%) | 36名 (37.3%) |
| | 小学校 | 30名 (36.1%) | 41名 (41.8%) |
| 10. 穏かなメロディーは優しさや思いやりを育む | 保育 | 42名 (50.6%) | 37名 (37.8%) |
| | 小学校 | 36名 (43.4%) | 35名 (35.7%) |
| 11. わらべ歌遊びは日常的に取り入れる | 保育 | 32名 (38.6%) | <52名 (53.1%) |
| | 小学校 | 17名 (20.5%) | 13名 (13.3%) |
| 12. 自分で感じた事をそのまま動きのリズムで表現する | 保育 | 39名 (47.0%) | >28名 (28.6%) |
| | 小学校 | 35名 (42.2%) | >26名 (26.5%) |
| 13. 音楽環境が子どもの心理状態に影響する | 保育 | 40名 (48.2%) | >29名 (29.6%) |
| | 小学校 | 42名 (50.6%) | >25名 (25.5%) |
| 14. CD等の音響機器は音質のよいものを選ぶ | 保育 | 39名 (47.0%) | >27名 (27.6%) |
| | 小学校 | 42名 (50.6%) | >34名 (34.7%) |
| 15. ピアノ等おけいこごとは幼児期から取り入れる | 保育 | 22名 (26.5%) | >12名 (12.2%) |
| | 小学校 | 22名 (26.5%) | >11名 (11.2%) |

選ぶ」15. 「ピアノ等おけいこごとは幼児期から取り入れる」で高い ($ps < .05$)。A群は保育に対して、鑑賞曲は子どもの分り易いものやリズムの即興表現、音楽環境が心理状態に影響することやお稽古事は早期に取り入れるなど高度な保育の質を重視し、B群は保育の中での実践的なわらべ歌を重視している。A群は、小学校教育に対しても同じように考え、保育や小学校教育の基本的な音楽活動の差は少ない。想像力を育むことや情景を読み取ること等小学校音楽教育と保育の音楽活動を同じように意識し、主体的・対話的で深い学びを理解し必ずしも順序通りにいかない音楽活動を理論的に理解しているのではなからうか。音楽活動において、音楽を楽しむ子どもを育て、子どもの無限な可能性を自ら拓くための保育・教育の役割を再認識したい。B群は、わらべ歌を保育の中で重視している。

保育実践をする中で、日本の伝統的な音階が乳幼児の子どもの声域に溶けやすい馴染みやすいものと考え、重視しているのであろう。

(3) 音楽的保育者観・教育者観

表3は、音楽的保育者観・教育者観について、『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内、『非常に重要だと思う』と回答したものである。項目別に比較すると、A群が保育者に対して2.「子どもに合わせて伴奏できる」8.「手・指遊びが上手である」11.「子どもの気持ち読み取り

表3 音楽的保育者観・教育者観

| 項 目 | | A群 (学生) | B群 (保育者) |
|----------------------------|-----|-------------|--------------|
| 1. 子どもの発達に合った音楽指導ができる | 保育 | 49名 (59.0%) | 65名 (66.3%) |
| | 小学校 | 53名 (63.9%) | 66名 (67.3%) |
| 2. 子どもに合わせて伴奏できる (ピアノ) | 保育 | 60名 (72.3%) | >57名 (58.2%) |
| | 小学校 | 38名 (45.8%) | <61名 (62.2%) |
| 3. 音楽に合わせて体を動かすことができる | 保育 | 53名 (63.9%) | 64名 (65.3%) |
| | 小学校 | 36名 (43.4%) | 51名 (52.0%) |
| 4. 音楽が好きである (歌うこと・鑑賞等) | 保育 | 43名 (51.8%) | 55名 (56.1%) |
| | 小学校 | 44名 (53.0%) | 53名 (54.1%) |
| 5. リズム感がよい | 保育 | 46名 (55.4%) | 51名 (52.0%) |
| | 小学校 | 43名 (51.8%) | 56名 (57.1%) |
| 6. 歌える歌のレパートリーが多い | 保育 | 51名 (61.4%) | 53名 (54.1%) |
| | 小学校 | 45名 (54.2%) | 54名 (55.1%) |
| 7. 生活の中の音に耳傾け音の面白さ気づく | 保育 | 35名 (42.2%) | 51名 (52.0%) |
| | 小学校 | 33名 (39.8%) | 34名 (34.7%) |
| 8. 手・指遊びが上手である | 保育 | 57名 (68.7%) | >53名 (54.1%) |
| | 小学校 | 22名 (26.5%) | 16名 (16.3%) |
| 9. 音楽を愛好する心情と感性を持っている | 保育 | 38名 (45.8%) | 36名 (36.3%) |
| | 小学校 | 35名 (42.2%) | 39名 (39.8%) |
| 10. 響きのあるきれいな声で歌う | 保育 | 32名 (38.6%) | 29名 (29.6%) |
| | 小学校 | 40名 (48.2%) | 47名 (48.0%) |
| 11. 子どもの気持ちを読み取り音楽行動に結びつける | 保育 | 45名 (54.2%) | >39名 (39.8%) |
| | 小学校 | 35名 (42.2%) | 34名 (34.7%) |
| 12. 個々の子どもの音楽的能力を把握できる | 保育 | 35名 (42.2%) | >24名 (24.5%) |
| | 小学校 | 46名 (55.4%) | 44名 (44.9%) |
| 13. 創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある | 保育 | 32名 (38.6%) | >24名 (24.5%) |
| | 小学校 | 39名 (47.0%) | 33名 (33.7%) |
| 14. 手・指遊びの創作やアレンジができる | 保育 | 50名 (60.2%) | 49名 (50.0%) |
| | 小学校 | 23名 (27.7%) | 16名 (16.3%) |
| 15. 音楽の要素構造と曲想の関りが説明できる | 保育 | 20名 (24.1%) | 16名 (16.3%) |
| | 小学校 | 31名 (37.3%) | 35名 (35.7%) |
| 16. 鍵盤楽器 (ピアノ) 以外の楽器できる | 保育 | 29名 (34.9%) | >10名 (10.2%) |
| | 小学校 | 30名 (36.1%) | 26名 (26.5%) |

音楽行動に結びつける」12.「個々の子どもの音楽能力を把握できる」13.「創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある」16.「鍵盤楽器以外の楽器ができる」で高く ($p < .05$)、小学校教員に対して2.「子どもに合わせて伴奏できる」で低い ($p < .05$)。A群はピアノを始めとした様々な楽器で歌の伴奏ができ、手・指遊びができるといった技能的なものにプラスして子どもの気持ちの読み取りや創造性・音楽能力の把握を保育者に求めている。B群は小学校教員にピアノ伴奏ができることを求めている。小学校教科音楽を保育・教育観(表2)と同じように保育の音楽活動との連続性は意識していない。保育者と小学校教師の経験交換や、研修・教育を合同することの重要性が高まっている。それを通して、互いの保育・教育のあり方について理解し教育課程や指導計画を連続とすることが理想である。幼保小の仕組みをお互い理解することが重要であり、教科音楽や音楽科指導法において共通した内容を学生に伝える必要がある。子どもの連続した発達を見通した保育・教育をすることはこれからの保育・教育者にとって重要である。大学内の免許状更新講習で、卒業後も保育者として教師としてお互いを尊重し合える相互理解の姿勢を育む内容をいれる方法も考えられる。

IV. まとめと今後の課題

保育・教育者が準備した身近な自然・地域の行事に関連する学習を違和感なく子どもたちに導入するためには、幼稚園・保育所・こども園を卒園後の小学校音楽教育を想定して保育者が音楽活動を実施できるのが理想である。今回の調査から、保育者は小学校教科音楽を充分理解しているとは言い難く、以前から言われている幼保小連携が殆ど進んでいないことが分かる。これからの子どもたちが成人し社会で活躍する頃には、グローバル化の進展やAIの進化で社会全体が大きく変化しており、ますます予測困難な時代を迎えると考えられる。そのような時代に教育の果たす役割はたいへん重要である。中でも幼保小の教育で連携する音楽を通し、感性・情緒、表現、協働等を育むことは心の豊かさと安らぎにつながり、人間形成に大いに関係すると考える。

新幼稚園教育要領・保育所保育指針の『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』の中にも、「自然との関わり・生命の尊重」や「道徳性・規範意識の芽生え」という項目がある。小学校音楽2年次で学習する【虫の声】は「生活」や「国語」に関わる教材である。道徳教育の教材として音楽を使用されることも考えられるが、音楽をどのように教育に使うかは周到な準備が必要となり保育・教育者の力量と人間性に左右されるといっても過言ではない。幼稚園教育要領・保育内容の「環境」や「言葉」は、小学校における「生活」や「国語」と共通していることから、幼保小の連携を見据えた子どもの歌を学生と共に模索したい。

こうした側面の実践には他教科と連動した音楽教育が必要と考える。幼児は、様々な形態で表現したことを言葉で伝え合い、共感したり認め合ったりしている。小学校音楽教育

を見据えて幼児期の音楽活動を支援していくことで、小学校音楽教育がさらに発展いくことを考えなければならない。

動機に明記した①から④に対応するため具体的には、①ピアノ等のレッスンにおいて学生に基本的なバイエル等を学習する中で音楽の構造の説明を分かりやすく説明することが大切である。②教科音楽において歌唱や器楽の基礎を学習する。またコンピュータを使用して簡単なメロディー作りをする。③表現する楽しさを音楽全般で行い他人の演奏を聴く姿勢を身につける。④自ら楽しく音楽に関わることができ、身の回りの音や音楽に関心を持ち、音遊びを通して音楽づくりの発想ができ、他人と協働して合奏や合唱ができるようにする。

上記のように音楽関連授業を充実させていきたい。

保育・教育者においては、ピアノの授業は音楽の基礎ともなり重要であるが、あくまで保育・教育の中におけるピアノ技術であることを踏まえ学生自身が音楽する心を大切にしたい。新学習指導要領では、「プログラミング教育」が入り、意図した音楽表現を実現するために工夫していくという音楽表現そのものが、プログラミング的思考に基づく学習活動になってくる。表3の音楽的保育者観・教育者観の意識はB群において「創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある」の意識が低いが、現代の多くの音楽家がコンピュータで音楽を作っているように、楽器演奏の技術が十分でない子どもたちもコンピュータを使用することにより、音づくりや音楽づくりの楽しさを味わうことができる。

新幼稚園教育要領の「指導計画の作成上の留意事項」には、「幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること」とある。

現職の保育者にプログラミング教育導入の意識調査も行い、幼保小の連携にも対応した音楽におけるプログラミング教育を学生と共に模索していきたい。プログラミング教育という新しいことに積極的にに関わり、急速に進展している情報技術時代の教育に対応できる人材を育てたい。

引用文献

- 1) 星野英五 2015「幼保小の連携に即した授業の考察Ⅱ—小学校音楽科教育をみすえて—」『名古屋芸術学研究紀要』第36巻 pp. 233-240
- 2) 星野英五 2016「学生の音楽意識Ⅱ—保育者の意識との関りから—」『日本保育学会第69回大会発表論文集』p. 707

参考文献

- 無藤隆他『ここがポイント！3法令ガイドブック』フレーベル館
 保育音楽研究プロジェクト編『青いみかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版
 山下薫子『平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理』東洋館出版社

佐野靖編著『小学校・音楽科 新学習指導要領ガイドブック』教育芸術社

J. L. マーセル『音楽教育と人間形成』音楽の友社

追記：本稿は、日本保育学会第71回大会発表論文集『子どもの情報機器の取り組み方の変化VI』を転載・改稿したものである。

質問紙

I. あなたの免許・資格取得と就職について

①あなたはどの資格・免許を取得しますか。あてはまるものを選んで右欄の数字にいくつでも○をつけて下さい。

1. 幼稚園教諭免許 2. 保育士資格 3. 小学校教諭免許

②あなたの就職希望は、現在、どれにあてはまりますか。右欄の数字に○をつけて下さい。

1. 幼稚園 2. 保育所(園) 3. 小学校 4. 施設関係 5. その他

II. 幼稚園・保育園時代の音楽活動の思い出について

①幼稚園・保育園時代の音楽活動は、あなたにとってどんな存在でしたか。4「非常に好きである」、3「どちらかといえば好きである」、2「嫌いである」、1「非常に嫌いである」の中から一つ○をつけて下さい。

②音楽活動の何が得意でしたか？

③音楽活動の何が苦手でしたか？

III. 小学校時代の音楽授業の思い出について

①小学校の音楽の授業は、あなたにとってどんな存在でしたか。4「他の授業より好きである」、3「どちらかといえば好きである」、2「嫌いである」、1「非常に嫌いである」の中から一つ○をつけて下さい。

1・2年生の時 3・4年生の時 5・6年生の時

②音楽の授業の何が得意でしたか？

③音楽の授業の何が苦手でしたか？

IV. 高校時代の音楽の授業について

音楽の授業を選択していましたか。1. 「はい」 2. 「いいえ」の中から一つ○をつけてください。

V. 教育者・保育者養成の授業について（あなたが取得する免許・資格に関わらず答えて下さい）

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。
4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者(幼・保)教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

(1) 子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーンで) (2) 音程やリズムに気をつけて歌える

(3) 歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫し歌える (4) 幅広く主体的に音楽鑑賞する

(5) わらべ歌で遊ぶ (6) 音楽理論が分かる

(7) タンプリンや色々なリズム楽器を扱う (8) 絵本や詩にメロディーをつけることができる

V. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者(幼・保)教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

(1) 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する

- (2) 楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心を持たせる
- (3) 音楽環境が子どもの心理状態に影響する
- (4) 自分で感じ考えた事をそのまま動きのリズムで表現する
- (5) おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ
- (6) わらべ歌遊びは、日常的に取り入れるようにする
- (7) 合奏指導は、幼児期に体験させるようにする
- (8) ピアノなどのおけいこごとは幼児期から取り入れるようにする
- (9) 鑑賞曲は、時間の短いもの、子どもに分かり易いものを選ぶ
- (10) 歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができるようにする
- (11) 音楽発表会は、日常的な活動からむすびつける
- (12) 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ
- (13) 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関わりを大切にする
- (14) CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ
- (15) 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じがわかるようにする

Ⅵ. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生として、次の項目はどの必要であると思いますか。 4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から教育者（小学校）・保育者（幼・保）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 音楽が好きである（歌うことを楽しむ・鑑賞をすること等）
- (2) 生活の中にある音に耳を傾け音を探し音の面白さに気付く
- (3) 創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある
- (4) 子どもの気持ちを読み取り音楽活動に結びつけることができる。
- (5) 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる。
- (6) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を持っている。
- (7) 子どもの発達に合った音楽指導ができる。
- (8) 音楽の要素や構造と曲想の関わりを感じ取り言葉で説明できる。
- (9) 歌える歌のレパートリーが多い。 (10)響きのあるきれいな声である。
- (11) 鍵盤楽器（ピアノ・エレクトーン）以外の楽器ができる。
- (12)手・指遊びの創作やアレンジができる。
- (13)手・指遊びが上手である。 (14)リズム感がよい。
- (15)子どもに合わせて伴奏ができる（ピアノ・エレクトーンで）
- (16)音楽に合わせて体を動かすことができる。

どうもありがとうございました。